

面から度々侵入を蒙つてゐる。ガニエープ川流域とイタリー北部とはアレネル峠が大切な通路となり最もよく利用される。

この方面は最近まで埃國の支配であつたが現今に於ては其の南麓は伊太利の支配に歸したのである。(上治)

新刊紹介

風景の科學

渡邊十千郎著新光社發行二冊
八〇錢四六判本文三二〇頁

著者は地質專攻の人なるが如きを見れば十千郎は萬次郎氏假りの名なるべし。強き綠色の絹表紙の裝幀にして強く人の目を惹く。表裝の美しきに比して數多き寫眞版の美しからぬはいふかと思はる。著者は序文中に曰ふ。風景美の科學的研究は著者專攻科目外なりと。然かも我國にては菊川氏の日本風景論以來初めての地學的風景論を作られしは著者が眞に風光美に愛着を有せられしによるなるべし。著者又曰ふ。此種の記述は之を歐來の文獻に求むるも得るに難しと、我等風景を愛するものは英人によりて書かれし科學的風景論のみにてもマツキントツン、ユ、マール、ゲキ、ロード・アヴヰグリー、マクネアを初め文學的のものとしてラスキンの大著あるを聞き及べり。風景の科學一の著者は恐く獨創卓見に富みたる人にして外國人の風景論には興味を感じざる學者なりと見ゆ。内容を一覽するに、よく最近の地形學を利用して地形の幼壯老を説いて風景美の據

つて來る所を論ぜり。舉ぐる所の例は日本にては東北地方を主とし、外國としては北米合衆國を主とす。多くは著者曾遊の地を挙げられたる如きを以て風景の眞髓を捉へられたり。ま、案内記以上に出でざる有名な勝地の例あるも深く咎むべきにあらず。地學愛好者にせりては本書は形容詞に富める日本唯一の地學書として一讀すべきものなりと思ふ。本書の缺點は寫眞版の不鮮明なる以外に最も大切なるべき術語と地名とに少からざる誤植あることにて、讀者の過讀を妨ぐるは遺憾のことなり。

(深淵生)

武藏野及其周圍

文學博士鳥居龍藏著

四六版三百十三頁クリーム色寫眞圖版十六葉地圖一葉他に澤山の挿畫がある。著者の武藏野愛好心から或は學術的に或は趣味的に時にふれ書き綴つた文章を集めた者で中には以前講演したものの雜誌に出した者なども含まれてゐる。著者は人も知る人類學者であつて此書は要するに先史人類學考古學上から見た武藏野及び其周圍即ち關東の事を記されてゐる。二部に分ち第一部は原史時代歴史時代に涉る事項で第二部は先史時代に就て記されゐる。東京近郊に興味ある士は兎に角一應目を通す必要があるかも知れない。定價貳圓である。本書の第一章は大體より見たる武藏野を論じてゐる。著者は滿州平原と武藏野平原とを比較して同じ心持がすると言つてゐる。少くも獨歩の武藏野趣味を解し得る人は島居文學博士とは大變異ふ感覺をもつてゐるだらうと思はれる。また武藏野のせゝこましさに豫氣のさした生

え抜き東京人が始めて石狩平野でも見れば其廣漠なる風景に感心して無暗と大陸的だと認めるだらうが實は關東の五分の一にもたらぬ。地圖上で見た關東平原はいかにも平原だが中野から國分寺邊へかけての武藏野は小さく仕切つた畑と森と人家で三町四方も見通しがきかない。滿州平原とは似てもつかない鳥園的のせよ、こましさを感ずる。かく本書の二頁三頁にて多くの讀者には博士の考へを大した隔りを思はせる余巻を通じての博士の説は地學者から人類學者から史學者から夫々反對を受くべき性質のものが多いやうである。であるから好學の士は是非一讀して置かねばならない本である。(J.M.生)

朝鮮部落調査特別報告第一冊(民家)

本報告書は朝鮮總督府の發行に係り今和次郎氏の朝鮮民家の調査研究を發表したものである。本文七十八頁、圖版四十一葉ありて圖版は甚だ鮮明である。此の外第三十一圖に至る挿圖があつて圖版及挿圖の多くは今氏の美しきスケッチである。今氏は朝鮮の住家を甚しく美しいものと考へられた。此の點は一篇の素へ觀光者と全く趣を異にする點である。大體に於て民家を北方型と南方型ろ一般朝鮮型として分けられた様であつて、約一ヶ月の研究旅行に依つたものであるから幾多の面白き問題を提出してはあつたが未だ全辭に互つたある一事項の分布を述べるとには至つて居ない。従つて本報告で朝鮮民家の構造や其住居としての意味は明かにされ得るが未だ地理學的の研究まで達して居ることは云はれない。然し慶尙北道の金泉の町にする關觀察

の如きは、人文地理として甚だ面白いものであつて其の下級住家が町の四周の高い位置にあることを明瞭な圖式で示されて居るところなどは一般地理學者の學ぶべき點であると思へる。猶本書の記述の仕方が甚だ自由であつて美しい言文一致でかゝれて居るのは役所の出版物として稀に觀る面白さを感じしめる、ある一部の記述は寧ろ散文詩とも云へる様な感情をかき表はしたものである。地學者は本書から如何に住家を愉快に且つ學問的に觀察すべきであるかを教へられる。(中村)

質疑應答

問 岩石研究の好參考書を御知らせ下さい。

答 本誌第一卷第三號「高等教員檢定試験の指定參考書に就いて」といふ表題の所に岩石の參考書の數種が既に擧げられてあります。然し質問者は恐らく此れ以外の書をも望んで居られるものと見做して、更に數種を紹介いたします。

岩石の成因に關して

- (1) Daly: Igneous Rocks and their Origin (1912) (大成岩)
- (2) Harker: Natural History of Igneous Rocks (1909) (大成岩)
- (3) Wolf: Der Vulkanismus (I-II) (1914及1928) (大成岩)
- (4) Grubermann: Kristalline Schiefer (1910) (變性岩)
- (5) Van Hise: Treatise on Metamorphism (1904) (變性岩)
- (6) Grabau: Principle of Stratigraphy (1918) (大成岩)